

花鳥風月・短歌

在りし夫勞わり育て木犀も

半月たてばばっさり切らる

百日草次から次と咲きそめて

蜂きて蝶の夕暮の空

塗塀 良子

神仏に安らかな死を願いつつ

今夜の夢は母に会いたし

物価高家庭を守る主婦達は

今日も買物全部ひかえ目

台風も我が行く道を忘れたか

右に左に迷い道変え

一色 ノブ

サルスベリ朝風に乗り房揺れて

我誘うのか手招きのよう

無花果の食べ時見分けに通っても

一足先にカラスが味見

西日避け影を追っかけ草取りし

夕暮れ時に風に癒され

守谷肇

「ピンポーン」ノート抱えし巡査の

近況調べ安心感謝す

雨降るもお観音さん花火あり

夜空染めたり「大柳」かな

孫達と水中めがね加茂川で

手つなぎ潜り「あっゴリがいるよ」

石井トシ子

なせばなるリハビリ続けて六年間

いたみこらえて今日もあるく

曾我部 福石

ゆく夏を惜しむがごとく鳴くセミも

やがては涼し草の虫鳴く

佐伯 定則

ドクターの土用太郎に告知有り

儚かなき命覚悟せり

小林 泰子

空き家には消えた家族の歴史あり

亡き父母の想い出尽きぬ

徳永 誠一

秋晴の運動会が懐かしい

我が子らすでに三十路となりぬ

ハロウインの魔女に変身孫娘

何でも言うこときいてる爺ちゃん

小田 和子

人生を振り返るなあ秋の夜

妻の取り出すアルバム開き

新米と書かれ定食屋の看板

入れと腹の虫が騒ぎぬ

小田 慶喜

半年間待ちたる検査異常なし

世の中少し明るく見ゆる

神野 幸男